

令和 5 年 5 月 4 日現在

機関番号：23803

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00038

研究課題名（和文）神・仏・天共存の原理に関する倫理学的研究 日本思想の基軸の解明

研究課題名（英文）Ethical Research on the Principle of the Coexistence of Kami, Buddhism, and Heaven: Clarification of the Axis of Japanese Thought

研究代表者

吉田 真樹（YOSHIDA, Masaki）

静岡県立大学・国際関係学部・教授

研究者番号：20381733

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、従来明確になつてこなかった日本思想の基軸を明らかにすることを目指し、神・仏・天の観点から代表的なテキストを横断しながら研究した。具体的には、記紀の祭祀思想の対比に基づき神仏習合原理の原型抽出を試み、『愚管抄』における神仏要素・慈円の現存・中世武士の時間意識を腑分けしながら立体的に考察し、『今昔物語集』の釈迦仏像の独自性を明確化し、伊藤仁斎の人倫思想、近松門左衛門の仏教思想と実存思想、『葉隠』の近代での受容などを含めて総合的に検討した。成果として編著書1冊、論文7本、学会発表2本、研究会発表10本、試訳1本を挙げた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

諸宗教の共存・共生が求められる現在、神仏共存原理の解明は普遍的な意義を有するものである。また日本人の神・仏・天共存的な宗教的感性がもつ倫理観、即ち「日本思想の基軸」は従来否定されるのみで十分に解明されておらず、日本における倫理学的思索の土台となることができなかった。本研究の学術的意義・社会的意義は、神仏関係思想のうちから普遍性と特殊性を繋げる柔軟な倫理学的原理を抽出することを試み、またそれと同時に代表的な古典テキストに即した研究を行うことで日本思想の基軸の一端を明らかにしたことにあるといえる。

研究成果の概要（英文）：In this research, we aimed to clarify the axis of Japanese thought and researched by crossing representative texts from the viewpoints of Kami, Buddhism, and Heaven. We specifically tried the following: extracted the prototype of the syncretism of Shintoism and Buddhism based on the comparison of the ideas of rituals for Kami depicted in Kojiki and Nihon shoki; explored the elements relating to the concept of Kami and Buddhism in Gukansho; and considered the author Jien's existential verity, or systematically analyzed the perception of time of medieval samurai; clarified the uniqueness of the figure of Shakyamuni Buddha described in Konjaku Monogatari-shu; comprehensively examined Jinsai's ethics regarding human relations, Chikamatsu's thought of Buddhism and human existence, and the reception of Hagakure in the modern period. As a result, we listed 1 edited book, 7 papers, 2 presentations at conferences, 10 presentations at the research meetings of this group, and 1 trial translation.

研究分野：倫理学・日本倫理思想史

キーワード：基軸 神 仏 天 古事記 愚管抄 今昔物語集 和辻

1. 研究開始当初の背景

日本の伝統的な倫理観の解明が、現在の倫理学研究において不可欠なものであることはつとに指摘されてきた。西洋の倫理学が伝統思想の批判的継承を通じて新たな理論を構築してきたことと同様に、日本の倫理学研究においても日本の伝統的倫理観の批判的継承が必要なのである。しかし日本の場合、伝統的倫理観を原理的に提示したものは数少なく、丸山真男の「座標軸」不在についての提言(『日本の思想』1961)にもかかわらず、いまだに不十分なままである。その一因として、日本の倫理思想が神信仰・仏教・武士道・儒学といった多様な領域において歴史的に現象し、しかも重層的に蓄積されてきたという特殊状況がある。このため、多様な領域を一貫する「基軸」が見えにくいのである。通史としては、和辻哲郎が『日本倫理思想史』(1952)で一貫した基軸(献身の道徳)を提示したが、偏った内容であった。それ以降は、佐藤正英『日本倫理思想史』(2003、増補改訂版2012)、清水正之『日本思想全史』(2014)のわずか2つの通史しかない。「日本思想の基軸の解明」という重大な課題は、佐藤通史が一部試みているが、これまで、正面から十分な形で取り組まれて来なかったと言っても過言ではない。

2. 研究の目的

主たる研究対象とする『愚管抄』に描かれた思想は、神仏“ 同体 ”的な本地垂迹の原理ではなく、神と仏それぞれの原理を見据えた独自の神仏“ 共存 ”の理論である。その独自性は慈円が人間の「現存」の意味と救済にこだわったことに由来する。慈円は、仏教に基づく普遍的な知をもちつつ、日本という特殊性とそこに生きる人間の在りようを凝視し、現在を歴史的に捉えるための理論としての神仏共存理論を構築したと考えられる。倫理思想としての理論的水準の高さにもかかわらず、倫理的な観点からの『愚管抄』の研究は皆無に等しい。本研究の目的は、『愚管抄』に描かれた思想を“ 神仏共存理論 ”として捉え、その“ 理論 ”がいかにか世界と人間の「現存」を意味づけたのかを原理的に考察することである。その際、“ 神仏習合原理 ”の一典型としての八幡信仰(『八幡宇佐宮御託宣集』・『八幡愚童訓』)を同時に原理的に考察することによって、「日本思想の基軸」の解明をも果たそうとするものである。

3. 研究の方法

『愚管抄』に描かれた“ 神仏共存理論 ”の原理の解明：慈円は、仏教的な神話的時間に日本神話の要素を組み入れる。この経時的で重層的な「道理」の動的構造を原理的に解明する。そのために分担者は『愚管抄』について研究発表を行う。

「日本思想の基軸」についての研究発表：複数領域の研究業績をもつ3名の分担者は、各自の分担領域から着想した「日本思想の基軸」について研究発表を行う。

『愚管抄』 問題点と試訳 修正版の作成と継続：本研究グループは研究開始当初までに、『愚管抄』で最も重要な巻第三及び七について、諸本から本文を確定し、本文や先行解釈の問題点を指摘し、精確な現代語訳を作成した。膨大な作業量を経たこの業績を修正し、最新版を作成して大学リポジトリで公開する。

研究成果の公開：各自の研究発表を、研究会の討議を経て修正後、論文として公開する。

4. 研究成果

研究代表者・吉田は、記紀の神祭祀から神仏習合原理の原型とみられる「神祀りの二重化」を抽出し、記紀の祭祀思想を対比し、また和辻が取り零した近松の仏教思想、仁斎と対比される近松の恋・誠の実存思想について考察し、期間全体では編著書1冊、論文2本を公開し、研究会発表2本を行った。研究分担者・上原は、丸山真男の「基軸」をめぐる諸論考を再検討した。それを踏まえ、主に記紀神話以前の神觀念と政治的に編成された記紀神話の神觀念との連続・非連続性、および神觀念が仏法と関係する構造を考察した。期間全体で研究会発表1本を行った。研究分担者・柏木は、『今昔物語集』天竺部において、自らも個として「現存」しつつ、人間の「現存」構造を解明・提示した存在として描かれる釈迦仏に即して中世日本の「仏」觀念を捉え返し、期間全体では論文1本を公開し、研究会発表1本を行った。研究分担者・栗原は、伊藤仁斎の儒学を対象として近世日本における「天」と人間の「現存」をめぐる考察を進めるとともに、『愚管抄』における武士像を考察し、期間全体では、論文1本を公開し、研究会発表2本を行った。研究分担者・上野は、『愚管抄』から慈円の「現存」に迫るとともに、武士の時間意識を「現存」から考察し、幕末期以降戦後までの『葉隠』の読まれ方を考察した。期間全体では論文1本を公開し、論文2本を成稿し、学会発表2本、研究会発表1本を行った。研究分担者・木澤は、『愚

管抄』の神仏共存解明のため、天台思想、祈祷に加え、権者、観音等の仏教諸要素を検討し、応神（神的要素）から観音の4化身（仏的要素）へという流れについて考察した。期間全体では研究会発表3本を行った。また、上原・柏木・吉田・栗原による「『愚管抄』 問題点と試訳(3)」を大学リポジトリで公開した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 吉田 真樹	4. 巻 30
2. 論文標題 『古事記』・『日本書紀』の祭祀思想序説	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 思想史研究	6. 最初と最後の頁 1, 18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柏木寧子	4. 巻 30
2. 論文標題 『今昔物語集』天竺部における釈迦仏入滅の理解	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 山口大学哲学研究	6. 最初と最後の頁 17, 46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 上原 雅文， 柏木 寧子， 吉田 真樹， 栗原 剛， 佐藤 正英	4. 巻 -
2. 論文標題 『愚管抄』 問題点と試訳（3）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神奈川大学 学術機関リポジトリ	6. 最初と最後の頁 ， 90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉田真樹	4. 巻 9
2. 論文標題 曽根崎心中の恋（中）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 パラゴーネ	6. 最初と最後の頁 21 30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Taisuke Ueno	4. 巻 3
2. 論文標題 The Flower as Encountering: The Ultimate Goal for the Emptiness of an Actor's Subjectivity in Zeami's Performance Theory	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Philosophical Texts: Vanishing Subjectivity - Flower, Shame, and Direct Cultivation in Asian Philosophies	6. 最初と最後の頁 47 68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 栗原剛	4. 巻 28
2. 論文標題 仁斎学における天道と人道 「誠」を軸として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『山口大学哲学研究』	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Taisuke Ueno
2. 発表標題 Time is Recurring (回帰する時間 日本中世の「戦術」にみる物語的時間)
3. 学会等名 Time in Medieval Japan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上原雅文
2. 発表標題 「日本思想の基軸」をめぐって
3. 学会等名 本科研費研究課題についての研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 栗原剛
2. 発表標題 「君臣合體」の趣意 附「文武兼行」の「威勢」への疑義
3. 学会等名 本科研費研究課題についての研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柏木寧子
2. 発表標題 『今昔物語集』における釈迦仏 その転法輪相をめぐって
3. 学会等名 本科研費研究課題についての研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 木澤景
2. 発表標題 『今昔物語集』天竺部にみえる仏教理解 巻第二・三を中心に
3. 学会等名 本科研費研究課題についての研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 栗原剛
2. 発表標題 相良亨『伊藤仁斎』における古義学の基層
3. 学会等名 本科研費研究課題についての研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上野太祐
2. 発表標題 「花」再考
3. 学会等名 日本倫理学会第72回大会・主題別討議（オンライン開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木澤景
2. 発表標題 『愚管抄』の天台思想性 その濃淡
3. 学会等名 本科研費研究課題についての研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木澤景
2. 発表標題 『愚管抄』における「権者」 神仏共存の中の「観音菩薩」
3. 学会等名 本科研費研究課題についての研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉田真樹
2. 発表標題 テキストを倫理思想として読むとはどういうことか ~ 『曾根崎心中』と『葉隠』に即して~
3. 学会等名 本科研費研究課題についての研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉田真樹
2. 発表標題 天照祭祀の二重化と神仏習合(その1)
3. 学会等名 本科研費研究課題についての研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上野太祐
2. 発表標題 『愚管抄』「巨害」としての保元の「大逆乱」をめぐって
3. 学会等名 本科研費研究課題についての研究会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 木村純二・吉田真樹編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 309
3. 書名 和辻哲郎の人文学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	上原 雅文 (UEHARA Masafumi) (30330723)	神奈川大学・国際日本学部・教授 (32702)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	柏木 寧子 (KASHIWAGI Yasuko) (00263624)	山口大学・人文学部・教授 (15501)	
研究分担者	栗原 剛 (KURIHARA Go) (50422358)	山口大学・人文学部・准教授 (15501)	
研究分担者	木澤 景 (KIZAWA Kei) (60796225)	静岡県立大学・国際関係学研究所・准教授 (23803)	
研究分担者	上野 太祐 (UENO Taisuke) (30835012)	神田外語大学・外国語学部・講師 (32510)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	佐藤 正英 (SATO Masahide)	東京大学・文学部・名誉教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関